

# 青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻138号 平成18年(2006)10月13日 Vol.37 No.3

## 特別展 わが家にテレビがやってきた

—昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる—



昭和30年代の茶の間（再現）



三輪トラック模型（安田勝寿氏蔵）

昭和31年度の『経済白書』では「もはや戦後ではない」というキャッチフレーズが使われました。これは第二次世界大戦後の経済復興が完了したことを意味する言葉でした。そして白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫、いわゆる「三種の神器」といわれた家庭用電気製品の普及をはじめとする消費ブームがやってきました。オート三輪、テレビのヒーロー、駄菓子屋、フラフープ等々は、「団塊の世代」とってはとりわけ懐かしく思われることでしょう。昭和30年代は、多くの国民が明日に希望を持ち、輝いていた時代でした。当時使われていた電化製品や自家用車、子どもたちに夢を与えたたくさんのおもちゃ、あるいはお茶の間や駄菓子屋の再現コーナーなどを通して、生活水準の向上とともに国民のライフスタイルが大きく変化した高度経済成長時代を振り返ります。本展では、今年でちょうど還暦を迎えたタロウと2つ違いの妹ハナコというオリジナルキャラクターを設定し、彼らといっしょに昭和30年代へタイムスリップします。

会期中には、下記のギャラリートークを実施いたします。

◇ギャラリートーク：10月22日(日)午後1時30分～3時 特別展会場にて青森県立藤崎園芸高校講師 増田公寧氏  
「家電—その歴史と魅力—」



白黒テレビ  
（増田公寧氏蔵）

### 開会式

9月15日(金)午前9時からの開催セレモニーが行われました。田村県教育長のあいさつに続き、関係者によるテープカットが行われ、その後、参列者を会場に案内し、当館学芸員による解説が行われました。

本特別展は11月5日(日)まで開催しております。

皆様のお越しをお待ちしております。



## じょうずにできたよ！ 夏休みこどものくに

今年度も「夏休みこどものくに」が開催され、たくさんの親子連れが物作りを楽しみました。今年のテーマは「インテリアにもなるよ！<sup>はなずみ</sup>すてきな花炭をつくろう！」と「君も化石博士！かわいい化石レプリカをつくろう！」の2つでした。



花炭作りは、空き缶にもみがらと炭にしたいものを入れ、ふたをして炭火で焼き上げるといった簡単な作業でしたが、黒く輝くトウモロコシの炭や、かわいらしい松ぼっくりの炭などすてきな作品ができてきました。ふたを取るときは、大人も子どもと一緒に缶の中をのぞき込み、歓声をあげていました。

化石レプリカ作りは、市販の型取り材で、本物の化石（アンモナイト・サメの歯・三葉虫）の型を取り、石膏を流し込んで作りました。みんな本物そっくりのレプリカを作り上げ、さらにおみやげの「子どものくに特製・化石カード」を手にして大喜びでした。

炭作りは、古くから青森県の山のくらしに根付いた活動です。また化石は、この夏パレオパラドキシア（絶滅したほ乳類の一種）の化石が深浦町から本県としては初めて産出しました。郷土館ではこのように青森県についての理解を深めたり、楽しんだりできるようなテーマで、今後も「こどものくに」を続けていきます。たくさんのご参加ありがとうございました。



### 土曜セミナーより

当館では、毎週土曜日に当館職員やゲストキュレーターによる土曜セミナーを開催しており、郷土の歴史・文化・自然などについてお話しております。そのなかから、5月20日に行われたセミナーの要旨をお伝えいたします。

#### 「映像でみるふるさとの伝承」 小山隆秀

民俗調査には、メモ帳やカメラの他に、デジタルビデオカメラを持ちます。集落で聞き取りばかりしていた私は、目の前で唄われた古い旋律、いきなり出くわしたお祭りなどは、ノートだけでは記録できないことを痛感し、唄も踊りも色も文書もなんでも記録でき、その場の雰囲気まで記録できるビデオカメラを用意しました。

2年で写した映像は100本を超えました。今回のセミナーでは、それらの中から県内の様々な習俗、行事のアラカルトをご覧いただきました。未編集の拙い映像ですが、本で読めば厳かなイメージの行事でも、実際には和やかな雰囲気だったり、意外な色彩や現在の変化が映っていたりと映像記録の持つ多様性がお伝えできたら幸いです。

このように歴史資料として映像を見直すようになったのは近年のことです。現代から見れば、テレビ草創期の昭和30年代の日常ニュースでさえ、変化し失った様々な情報が詰まった歴史資料として映ることがあります。

## ものは語る

せきじんぞく

# 石刃鎌

日本列島には縄文時代にも大陸から人や文化が入ってきました。それを示す代表的な遺物が石刃鎌です。石刃鎌はカミソリの刃のように細長く薄い石片を素材として鎌（やじり）として形を整えた石器です。その分布はシベリア・中国東北部・沿海州地方などユーラシア大陸北東部に広大な広がりを持っています。

日本では縄文時代早期の北海道北東部に主に分布していますが、本州では青森県内で2点見つかっています。1点は東通村ムシリ遺跡から発見されたもので、郷土館で収蔵しています。採集された故小野忠正氏は、石刃鎌を紹介した1961年の論文の中で、青森県は本州と北海道の文化交流を明らかにするうえで重要な位置にあり、石刃鎌の源流が大陸であることから、ひいては大陸と本州をつなぐ文化交流の結節点であると述べています。ガラスの輝きを持つこの黒曜石製の石刃鎌を見ていると、遙

か大陸まで含めた大きな視点を持って青森県をとらえた氏の見識の広さとともに、発見した時の喜びの大きさが伝わってきます。郷土館の建物は青森銀行の旧本店を改装していますが、現在当館に収蔵されているこの石器の採集者の故小野忠正氏は、長年にわたりその店舗に勤務していたのでした。物と人の織りなす縁の不思議さも感じられます。

(齋藤 岳)



石刃鎌

## 郷土の先人⑪

### 大衆を魅了したヒットメーカー 上原 げんと (うえはら げんと)

本名 治左衛門 (じざえもん) つがる市出身  
1914 (大正3) 年12月28日～1965 (昭和40) 年8月13日

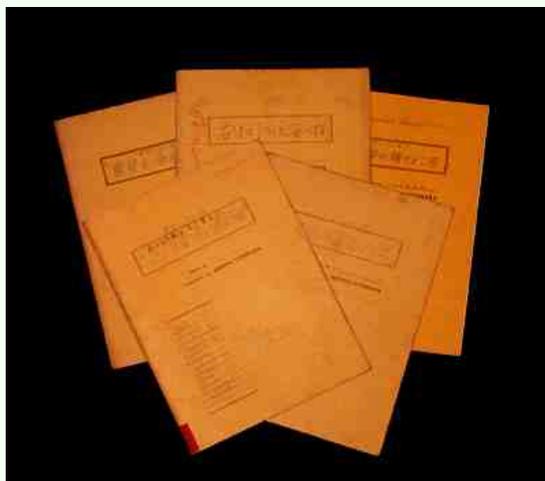
旧木造町で11人兄弟の長男として生まれました。家は金物店でしたが、当時としてはめずらしいレコードや楽器を扱っていました。幼い頃から店の楽器類をいじっているうちに音楽の魅力にとりつかれ、旧制木造中学校 (現木造高校) 時代にはマンドリンクラブを結成するなどしています。中学卒業後、音楽への夢をあきらめきれずに作曲家を目指して上京しましたが、音楽学校をでていないため、プロの作曲家への道は厳しいものでした。チンドン屋の楽隊、サーカスのクラリネット吹き、流しの演歌師をしながら全国を放浪、そんな中でも独学で作曲を続け、作品を書きためていきました。

1939 (昭和14) 年、歌手の岡晴夫 (千葉県出身 1916～1970年) とコンビを組み「国境の春」で作曲家としてデビューを果たします。その後、「上海の花売娘」をはじめとする花売娘シリーズが次々とヒット、戦後も日本初のブギウギを取り入れた「東京の花売娘」で一世を風靡します。「バラを召ませ」「東京のバスガール」、「港町十三番地」など

数々のヒット曲を生み出し、昭和期を代表する歌手たちを育てました。

また、実弟の賢六も、げんとのもとの作曲を学び、「錆びたナイフ」「赤いハンカチ」など石原裕次郎とのコンビで活躍しました。

(太田原慶子)



楽譜類： 歌 美空ひばり 作曲 上原げんと  
(黒石ゆかりの作曲家私設資料館所蔵)

## 10月～1月の行事

### 特別展・企画展等

9月15日(金)～11月5日(日)

#### わが家にテレビがやってきた

—昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる—

11月11日(土)～12月10日(日)

#### 佐藤清治展

12月19日(火)～1月14日(日)

#### 郷土玩具展—北彰介コレクションを中心に—

故北氏から寄贈されたコレクションを中心に、日本各地の郷土玩具を紹介します。

### 冬休み企画

当館では、冬休みの時期に、ぶぐり回し大会(1/7(日)予定)のほか、クイズ等の企画を実施する予定です。詳細は後日お伝えします。

### 土曜セミナー

|        |                                       |         |
|--------|---------------------------------------|---------|
| 10月7日  | クジラの進化                                | 島口 天    |
| 10月14日 | 縄文の海と生業(なりわい)                         | 市川 金丸 氏 |
| 10月21日 | 昭和30年代<br>—活躍した青森県人—                  | 太田原慶子   |
| 10月28日 | 伝統的な葬送儀礼                              | 長谷川方子 氏 |
| 11月4日  | 近代が出会った古いカラダ                          | 小山 隆秀   |
| 11月11日 | 津軽塗りに秘められた謎                           | 佐藤 武司 氏 |
| 11月18日 | 文化財になぜカビが生えるか                         | 坂本 寿夫   |
| 11月25日 | 郷土玩具と民芸品                              | 今 純一郎 氏 |
| 12月2日  | 遊びの民俗                                 | 北川 達男   |
| 12月9日  | 南部の大河 馬淵川                             | 齋藤 潔 氏  |
| 12月16日 | マッチラベルで見る<br>昭和30年代の青森                | 相馬 信吉   |
| 12月23日 | おもちゃとあそび                              | 三上 強二 氏 |
| 1月6日   | イギリスの博物館展示で見た日本<br>～新幹線・阪神大震災、そして考古資料 | 齋藤 岳    |
| 1月13日  | 岩木山の生物多様性と保全                          | 阿部 東 氏  |
| 1月20日  | 江戸時代の本県の交通                            | 佐藤 良宣   |
| 1月27日  | 弘前藩の法令にみる武家の生活                        | 黒滝十二郎 氏 |

## 佐藤清治展

佐藤清治氏は、1937年青森県で生まれ、長年映画看板をはじめとする広告美術を手がけ、1990年「現代の名工」として労働大臣から表彰を受けています。一方で、さまざまな絵画作品を製作しており、県展・亜細亜現代美術展などに入選しています。本企画展では、同氏が描いた初代高橋竹山の姿や動物の鉛筆画などの絵画を一堂に集めて展示します。

会期：11月11日(土)～12月10日(日)

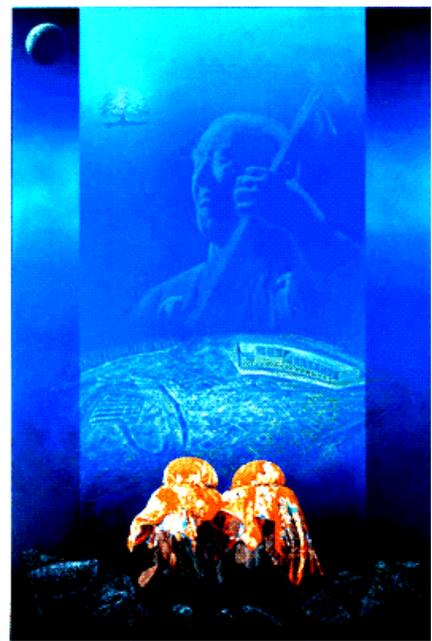
時間：午前9時～午後5時

料金：常設展観覧料金で観覧できます。

一般 310円

高校・大学生 150円

小・中学生は無料



北のまほろば(縄文の柵)

### 旅順博物館日中書画展覧会中止のお知らせ

以前、当館の広報紙等で、11月に開催予定とお知らせしておりましたが、『旅順博物館日中書画展覧会』につきましては、都合により中止となりました。ご了承下さい。

### お知らせ

『青森県立郷土館だより』はインターネットでもご覧になれます。次のアドレスにアクセスして下さい。

→ [http://www.pref.aomori.lg.jp/kyodokan/04\\_shuppan/042\\_dayori.html](http://www.pref.aomori.lg.jp/kyodokan/04_shuppan/042_dayori.html)

総合博物館 青森県立郷土館だより Vol. 37 No. 3 通巻138号 2006.10.13

編集・発行 総合博物館 青森県立郷土館

〒030-0802 青森市本町二丁目8-14 TEL (017) 777-1585(代)

ホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/kyodokan/>

